

定年退職に当って

松 井 勇

お茶の水女子大学地理学教室には昭和22年(当時は東京女子高等師範学校)以来、長い間お世話になってまいりました。私にとって教員以外の適職は考えられませんが、職場としては当教室の右にでもものはないように思われます。

委員などに選ばれて、やむをえず面白くない苦勞をした他は、長い在職期間を通じて、全くといってよほど自由に、自分の好みにあった仕事をさせていただきました。今この文を書きながらも、心から感謝の気持で一ぱいです。

大学の教員の仕事は、学問の教授と研究にあるといわれています。講義・セミナー・巡検など、いつも楽しくといっは少々オーバーですが、義務としていやいやながら行ったことは一度もありません。もっともセミナーでは時々居眠りをしたようで、まことに失礼致しました。なお成果は別として、自ら選んだいくつかのテーマを、多くの方々のご援助をえて、楽しく研究してまいりました。

教育も研究も私共の義務には違いありませんが、それが自分にとって強制ではなく、むしろ生きがいとさえ思われたのは、1つにはわれわれの地理学教室の雰囲気のためでしょう。そのような環境をつくりだして下さったのは、先輩の飯本・赤木・渡辺先生をはじめ、教室の諸先生及び職員の方々、ならびに多数の学生諸姉の方々です。ここまでのびのびとふるまわせていただき、まことにありがとうございました。それこそ他の大学では望みえなかったことです。かえりみてそれだけ皆様にご負担をおかけしたことと思われませんが、この点はお許しを願う他ありません。

お茶の水女子大学とともに、当地理学教室がますます栄えますように。